

放射線業務従事者の教育訓練を受けて

川崎市立多摩病院 画像診断部 島本華子

私は4月に放射線技師の免状を取得し、学生という保護された世界から、個人の責任が課せられる社会人となりました。病院で勤め始めて一番驚いたことは、働いている先輩方の放射線に対する知識の高さです。私が学生時代に勉強してきた事が、いかにあいまいな知識であったのかを実感していました。放射線に対する知識を少しでも高めたいと思い、今回の教育訓練講習会に参加しました。

講義内容は、放射線装置の使用法をデータや画像を多く使用したものでしたので、理解しやすかったです。粒子線治療についての話は、あまり聞く機会がないこともあり、大変興味深く聞くことができました。また、放射線が人体に与える影響もデータだけでなく、実例を知ることで、今までよりも現実的に放射線の影響を知ることができました。今回の講習会に参加したことで、放射線がどれほど有用性の高いものであるか、しかしそれと共に放射線がどのように人体に影響を与えるものであるかを学ぶことができました。これから仕事をしていく上で、放射線を取り扱うことの大変さや責任の重さを感じ、慣れてしまうことなく気を抜かずに、細心の注意を払わなければならないと思いました。

また、技師だけでなく医師や看護師の方々からお話を聞いた事は、私にとって非常に有意義でした。チーム医療の大切さを改めて感じる事が出来ました。さらにはお互いの職種や職域を理解することはチーム医療にとって重要なことだと感じました。

今回の講習会で特に印象に残った言葉があります。それは、看護師の方がおっしゃっていた「検査の説明や前処置を行う際に技師がいてくれると安心する」という言葉です。私は今まで、患者様のことは看護師や医師にまかせておけば大丈夫だと考えていました。しかし実際はそうではなく、患者様によっては急変を起こしてしまう方がいるため、緊急時にはやはり人の力が必要となります。そのような時にすぐに対応することができるように、医師や看護師に任せきりにせず、技師は近くにいななければならないということ学びました。そして、それだけではなく、検査の説明の際の質問への対応も、検査を行っている技師が受け答えをすることで、患者様も安心して検査を受けることができると感じました。そのために私は知識を身につけ、それぞれの検査内容・目的をしっかりと理解し、患者様に説明できるような技師になりたいと思います。



会場の様子